

競技注意事項

1. 規則について

本大会は 2023 年度日本陸上競技連盟競技規則（日本陸連）ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。また、競技者は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」を適用し、違反する場合は注意を行う。

2. 競技場使用上の注意

- 1) 競技場は全天候舗装である。
- 2) 観戦はスタンドで行い、大会本部付近や競技エリア内には立ち入らないこと。
- 3) 本大会は WA ルールを適用し、規格外のシューズの使用はすべて禁止する。詳細は、日本陸連発表「[靴底の厚さ](#)」を参照すること。
- 4) スパイクはトラック・フィールド共に 11 本以内で長さは 9mm 以下とする。ただし、走高跳及びやり投の場合は 12mm 以下とする

3. アスリートビブス・腰ナンバー標識について

- 1) アスリートビブスは学連登録時に配布しているもの 2 枚を胸部と背部に確実につけること。但し、跳躍種目の場合は胸部か背部のどちらか一方でもよい。
- 2) トラック競技の場合は腰ナンバー標識を両側につける。腰ナンバー標識は招集所で受け取り、レース終了後はフィニッシュ地点で所定の場所に返却すること。
- 3) 10000mW においては競歩用アスリートビブスと腰ナンバー標識を付けること。腰ナンバー標識は両側につける。競歩用アスリートビブス及び腰ナンバー標識は招集所で受け取り、レース終了後はフィニッシュ地点で所定の場所に返却すること。

4. 各種書類について

大会当日の各種書類の配布及び提出の窓口については、下表の通りとする。

書類・配布物	配布場所	提出先・依頼先
欠場届・重複届・リレーオーダー用紙	招集所	招集所
記録証明書	大会本部 (1 F 正面玄関前)	大会本部 (1 F 正面玄関内)

5. 招集について

- 1) 大会に出場するすべての競技者は、種目ごとに必ず招集を行うこと。
- 2) 競技者招集所は、選手エントランス 2 (100m スタート側) に設ける。なお棒高跳は競技エリアにて行う。
- 3) 競技者はタイムテーブルに記載の時間までに招集所に集合し、競技者係から当該種目に出場する競技者本人が第 1 次点呼を受けること。最終点呼も同様である。
- 4) 招集に遅れた場合は当該選手（リレー競技の場合はチーム）を欠場とみなし、いかなる理由であってもその種目への出場を認めない。
- 5) 招集時間が他の種目と重なる場合、事前に主催者側が用意した重複届を競技者係に提出すること。
- 6) 重複届を提出した場合でも、必ず本人または代理人が第 1 次招集を行うこと。その際、重複届の控えを持参すること。
- 7) リレーオーダー用紙は主催者が用意したものに限る。オーダー用紙は招集所で配布する。リレー種目に出場するチームは、オーダー用紙を当該種目の招集開始 60 分前までに招集所に提出すること。
- 8) リレーのメンバーについては、競技規則 TR24.リレー競走を参考のこと。ただし、同参加校での異なるチーム間のメンバー移動は認めない。

6. 不出場（棄権）について

やむを得ず本競技会への出場を辞退する場合は、下記の要領で「欠場届」を提出する。

- 1) 4月26日（水）正午までは、参加校ごとに事前欠場者を取りまとめ事前欠場届を東海学連までメールにて提出すること。
- 2) 4月26日（水）正午以降に出場辞退する場合は、欠場届（招集所とHPに用意）に必要な事項を記入し、捺印（サインでも可）したものを招集所に提出すること。リレー競技においても同様の手続きを満たし、招集開始の60分前までに欠場届を提出すること。
- 3) 学校全体で出場を辞退する場合は、東海学連までその旨をメールにて連絡すること。欠場届の提出を免除する。

7. 用器具について

- 1) 棒高跳用のポールは各自が持参したものを使用する。
- 2) その他の競技に使用する用具は競技場備え付けのものを使用する。ただし、投てき競技で、個人所有の投てき物の使用を希望する場合には検定を受けることで個人所有の投てき物の使用を認める。
- 3) 投てき物については、競技場物品（別紙「投てき物一覧表」参照）を自由に使用することができる。但し、都合により使用できない場合がある。
- 4) フィールド競技で使用するすべり止め（炭マグ）は、各競技者が個人で準備する。
- 5) 投てき物の検定は、選手エントランス1にて招集開始60分前から招集開始時刻まで行う。なお、検査後の投てき物は、一時的に競技場備品として扱い、他の競技者との共用とする。破損に関しては、主催者側は何ら責任を負わない。

8. ウォームアップについて

- 1) ウォームアップは、開門からトラック競技開始20分前まで競技場内で行うことができる。この時間帯の直線走路の使い方については下の表の通りとする。

レーン	種目
1～2	中長距離及びジョグ
3～6	短距離・スタートダッシュ練習
7	女子100mH、400mH
8	男子110mH、400mH

- 2) 競技開始後のウォーミングアップについては、周回種目中はバックストレートの7、8レーンのみで使用を許可する。また、周回種目以外の競技中はバックストレートでのウォームアップを認める。但し、10000mW及び、棒高跳の競技中は認めない。
- 3) 芝生内でのウォームアップは大会運営に支障が出るため禁止とする。また、競技役員の指示があった場合はそれに従うこと。

9. 競技について

1) トラック競技について

- ・本大会は電気計時（1/100 秒）を用いて実施する。
- ・各レースで1回でも不正スタートをした競技者を失格とする。
- ・短距離種目においては、衝突事故を防止するため、フィニッシュライン通過後は自分の割り当てられたレーンを走ること。
- ・以下の種目について競技日程に支障が出ると判断した場合、審判長の指示により以下の目安時間で競技を打ち切る場合がある。
男子10000m...スタート後50分
男子10000mW、女子10000mW...スタート後65分
男子5000m...スタート後20分、女子5000m...スタート後30分
- ・長距離種目のフィニッシュの際は、3レーンより外側を走行すること。先頭が残り1周となった時点で、3レーン付近に目印となるカラーコーンを設置する。
- ・1組に12名以上の競技者がいる場合、グループスタートを実施する場合がある。
- ・10000mWにおいては、競歩審判員主任による単独失格権限ルール（TR54.4.1）を適用する。

2) フィールド競技について

- ・3回の試技が終了後、トップ8のみ追加で3回の試技を行う。男女走幅跳・男子三段跳については、すべての組の終了後に全体のトップ8のみで行う。
- ・男子走幅跳・三段跳は、スタンド側をAピットとし、トラック側をBピットとする。
- ・三段跳の踏切位置は男子Aピット11m、Bピット12m、女子Aピット10mとする。但し、該当審判員または審判長の判断で変更する場合がある。また男子の踏切位置は資格記録により主催者側が変更する場合がある。
- ・走高跳については、メインスタンド側をAピットとし、バックスタンド側をBピットとする。
- ・跳躍競技（高さで順位を決定する競技）のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	以降
男子走高跳 Aピット	1m92/2m01	1m92	1m95	1m98	2m01	2m04	2m07	2m10	2m13	
男子走高跳 Bピット	1m68/1m83/1m89	1m68	1m73	1m78	1m83	1m86	1m89	1m92	1m95	以後3cm
女子走高跳	1m51/1m61	1m46	1m51	1m56	1m61	1m64	1m67	1m70	1m73	以後2cm
男子棒高跳	4m10/4m50/4m80	4m10	4m25	4m40	4m50	4m60	4m70	4m80	4m90	以後10cm
女子棒高跳	3m00/3m40/3m60	3m00	3m10	3m20	3m30	3m40	3m50	3m60	3m70	以後10cm

- ※1. 第1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。
- ※2. 第1位が決まった後にバーを上げる場合、当事者は該当審判員または審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。
- ※3. 天候等に応じて審判長の判断で開始の高さ、バーの上げ方を該当審判員または審判長の判断で変更する場合がある。

10. 助力について

- 1) ラップ読みについてはスタンドでのみ認める。審判から別途指示があった場合は、それに従うこと。
- 2) 競技会において、競技者は、携帯電話やスマートフォン等の通信機器もしくはこれらに類似する機器を競技エリア内で使用してはいけない。（競技規則 TR6.3 を参照すること）
- 3) 競技中の選手に対する助言は競技規則 TR.6.2 に準ずる。またフィールド競技に関しては該当審判員が許可を与えた上でコーチにアドバイスを聞きに行くことができる。審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は主催者側で協議し対処する。

11. コーチングエリアについて

フィールド種目において、コーチングエリアを設置する。コーチングエリアはすべてスタンド下段に設ける。設置場所は以下の表の通りである。

種目	場所
走幅跳・三段跳	正面スタンド
走高跳	第3、第4コーナー間
棒高跳	バックストレート
投てき種目	第2コーナー付近

12. 給水について

距離が5000mを超える種目については、バックストレートに給水所を設置する。給水後のコップについて他の競技者の妨害になるような捨て方は厳禁とする。

1 3. 抗議と上訴について

- 1) 競技結果の正式発表時間は、大会速報サイトに結果が発表された時間を基準とする。
- 2) 競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、結果が正式発表されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる種目は 15 分以内）に、その競技者あるいはチームの代表者により担当総務員を通じて口頭で審判長に申し出なければならない。
- 3) 審判長の裁定を不服とし、さらに抗議をする場合は、上訴申立書と預託金 10,000 円を添え、担当総務員を通して上訴することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。この間の事務的処理は担当総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

1 4. 応急処置について

競技中の事故やケガについては医務室において応急処置を行うが、その後の治療は本人の負担とし、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。但し、2023 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。

上記内容および本大会の規則については、大会役員の協議が最終決定権を持ち、これは変更になる場合があるので、アナウンスや掲示板に注意すること。また、学生競技者としてのマナーに逸脱するような行為があった場合は、処罰を与える。

東海学生陸上競技連盟